



県議会議員
山本友子



市議会議員
小沢 みか



市議会議員
森山かおる

e-mail: i.shimin-net@muse.ocn.ne.jp
ホームページ http://ichihara-net.com/

いちはら 市民ネットワーク通信

発行：いちはら市民ネットワーク 代表 桑田尚子
〒290-0073 市原市国分寺台中央7-1-5 C1 ☎:0436-21-1907 Fax:0436-21-9073

「貸本」だけではない

市原の知の拠点 図書館を考える

全国の自治体で図書館が変わり始めています。本来の「貸本」や「調べもの相談(レファレンスサービス)」を行うだけでなく、施設のスペースにカフェを併設し、借りた本を持ち込んでくつろぐことができる図書館や、市民団体の交流や不登校の子どもたちの居場所に活用されている図書館もあります。

市原の図書館の在り方を考えるために、他自治体の図書館を視察しました。



明るく広々としたスペース、吹き抜けから見た児童館。(南相馬市立中央図書館)

南相馬市立中央図書館

利用者目線の開放感あふれる明るいスペース。いつでも、いつまでも居たくなります。幼児用の図書の隣には親のための図書も充実。障がい者を雇用したレストランも併設されています。



学校図書館支援センター(袖ケ浦市教育センター内)

袖ケ浦市立中央図書館

袖ケ浦の小中学校では、図書館を利用する「調べ学習」が充実しており、市内すべての図書館・図書室と学校図書支援センターが連携して、子ども達の学習をサポートしています。



図書の購入も職員が分担し、直接調査して選ぶ。レプリカの絵画・ぬいぐるみまで貸出していることにはびっくり。(南相馬市)



明るい児童室の机は、傾斜して閲覧しやすい。読みかきせ用の部屋も確保している。(袖ケ浦市)

「知の拠点」となる図書館の在り方を共に考えていきたいと思います。

市原市でも、今図書館の在り方を変えようとしています。誰もが気軽に立ち寄り本に親しみ、郷土の歴史や文化を後世に伝える

袖ケ浦市では生涯学習の拠点として、市内どこからでも読みた本にアクセスできる仕組みをつくっています。「調べ学習」の体験を積み重ねた小・中学生は、自ら学習の仕方を工夫できるまでに成長し、読書感想文や「調べ学習」の全国コンクールで毎年上位入賞を果たしています。

全国から視察が絶えない
福島県の南相馬市立中央図書館と
袖ケ浦市立中央図書館



南相馬市長
桜井勝延氏

被災時の窮状等をテレビ番組や YouTube にて積極的に訴え、米国タイム誌から、2011年版の「世界で最も影響力のある100人」に選ばれた。

「最大の防災は、避難計画より原発を再稼働しないことだ」と、静かに語る桜井市長の言葉には、市民の暮らしを守ることに命をかける政治家の一念が溢れています。深く心を打たれました。

その後、さらに「30キロ圏内の入院患者はすべて避難させろ」という命令が出て、強制避難させた入院患者が485人も亡くなるという悲惨な出来事もありました。

新潟県知事には感謝しきれない」と市長は語ります。

南相馬市は津波被害で634人の犠牲者を出し、2500人と連絡がつかず、追い打ちをかける原発事故で孤立させられました。事故の8日目、情報も全く市に届かない中、市長は国の指示を待たずに市民の避難を開始しました。続々と遺体があがってくる現場で、自らも被災者である役所の職員には過酷な仕事を課し、1万4千人の市民を一晩で20キロ圏外に避難させました。「南相馬市民はすべて受け入れる」と約束してくれた泉田新潟県知事には感謝しきれない」と市長は語ります。

3月末、いちはら市民ネットの有志で福島へのバス研修を実施しました。1日目は被災現場を訪れ、2日目早朝には、桜井勝延南相馬市長と懇談の時間を持つことができました。

県議会議員 山本友子

南相馬市長の戦い

熊本・大分県地震で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。
一日も早く、平穏な暮らしが回復できるようお祈りいたします。



3月議会 代表質問



ブログで活動を
報告しています

市原市議会議員

小沢 みか

女性が住みたいと思える市原市のまちづくりへの提言

男性に比べ、若い女性の流出が止まらない市原市。女性の意見を積極的に取り入れたまちづくりが、早急に必要です。代表質問では、超党派の女性議員の会を取りまとめた「若い女性が住みたいと思えるまちづくりのための提言」について、市長に改めて聞きました。

女性に「選ばれないまち」から「選ばれるまち」へ

市原市では近年、若い女性（20～30代）の流出が、男性に比べて2～3倍も多いことが大きな課題となっています。そこで、市原市議会女性議員の会「※こすもす倶楽部」では、若い女性を対象にアンケートや意見交換を行い、分析した結果を提言書にまとめて、市長に提出しました。

■男性視点から女性視点へ

これまで市原市は、臨海部コンビナートに代表される工業のまち、いわば男性視点のまちづくりを行うことで飛躍的に発展を遂げてきました。これは、右肩あがりの時代には必要だったかもしれませんが、これから市原市が成熟した持続可能なまちを目指すためには、女性の視点を活かした、女性に選ばれるまちへと変革することが必要です。

■3つの提言

女性議員の会で調査・分析した結果をまとめた提言は、以下の3点です。

提言1 公共交通の利便性

車を持たない・持てないという若者の車離れが進んでいます。高齢者と同様、若者も「交通弱者」なのです。電車やバスのダイヤの充実により、「市原市から楽に都内にも通える」環境がまず必要です。

提言2 駅周辺の街並みの魅力

駅の周辺はそのまちの顔です。車で通りすぎるのではなく、そぞろ歩きをしたくなるような街並みが

人々の交流を生み、その都市空間への愛着が育ちます。

提言3 住宅の確保

就職や結婚など、独身女性が次のステップに進む際に後押しする仕組みが求められています。企業の住宅支援が縮小傾向にある現在、不動産業界との連携、空き家の活用や補助制度など、若い世代の希望を叶えるための住宅からのアプローチが必要です。



■女性の生の声を活かして

代表質問に対し小出市長は、「貴重なご提言と受け止めている。新総合計画の策定に活かしていく」と答弁しました。

今後は、行政も直に女性の声を聴く機会を意識的に設けるよう、重ねて要望しました。

※「こすもす倶楽部」市議会の女性議員全7名で結成した超党派の会。女性の立場から様々な政策提言を行う。



3月議会 議会質問



ブログで活動を
報告しています

市原市議会議員

森山 かおる

初めての予算審査「アート × ミックス」について集中質疑

市民の払った税金がどう使われるのかを審査するのは、本当に重い責任です。予算審査のうち、私が所属する建設分科会では、橋 梁 長寿命化計画や耐震シェルター等きょうりようについて質問しました。意見陳述ではいくつかの指摘をしたうえで、28年度予算案に賛成しました。

平成28年度の予算が可決

市原市の予算総額は、1602億9800万円。過去最大の予算額（前年度比0.3%増）になりましたが、市民税はここ数年ほとんど変化がなく、決して景気が良くなった訳ではありません。



今回、予算審査特別委員会の建設分科会で予算を審議しました。

■増え続ける扶助費

医療や介護、子育て支援、生活保護や障害福祉などにかかる扶助費の割合が年々増加していることは、市原市に限らず他の自治体も同じです。これは人が最低限の生活を維持するための費用であり、欠かせない経費です。

市の財政状況がさらに厳しくなったとしても、安心して住み続けられるようセーフティネットの構築を求めました。

■求められる市民参加のまちづくり

今後は、人口減少や少子高齢化、企業からの税収減少に加えて、老朽化した公共施設の大規模改修や維持管理費用が急増するため、厳しい財政状況が続きます。

公共サービスを行政だけで担うには限界があり、市民の力が必要ですが、市民と行政が対等に力を

発揮していくには、両者の情報の共有が不可欠です。それでこそ「市民力」が活きる市原になるのではないだろうか。

■課題が多かった「アート×ミックス」どう変わる？

3年ごとに開催される「中房総国際芸術祭」は「アート×ミックス」。次回（平成29年度）の開催に向けて、7660万円の予算が計上。南市原の活性化を狙った事業です。今後の市原のまちづくりのモデルにもなり得ることから、総括質疑で取り上げました。

前回はディレクターの力が強すぎて市民の声が反映されず、市民参加につながらなかったことが最大の課題でした。次回は実行委員会が全体のプロデュースを行い、もっと市民が主体者となれるような芸術祭にしていくとのこと。本来の目的である「アートを通して地元根付く市民参加のまちづくり」に、ようやく舵を切り直したようです。

しかし継続していくならば、これまでに既に4億円以上投資したことを忘れずに、今後、市原市がもっと魅力的になる活動を実施するよう強く要望しました。

原発事故から5年、福島は今… (2016年3月28・29日 研修記)

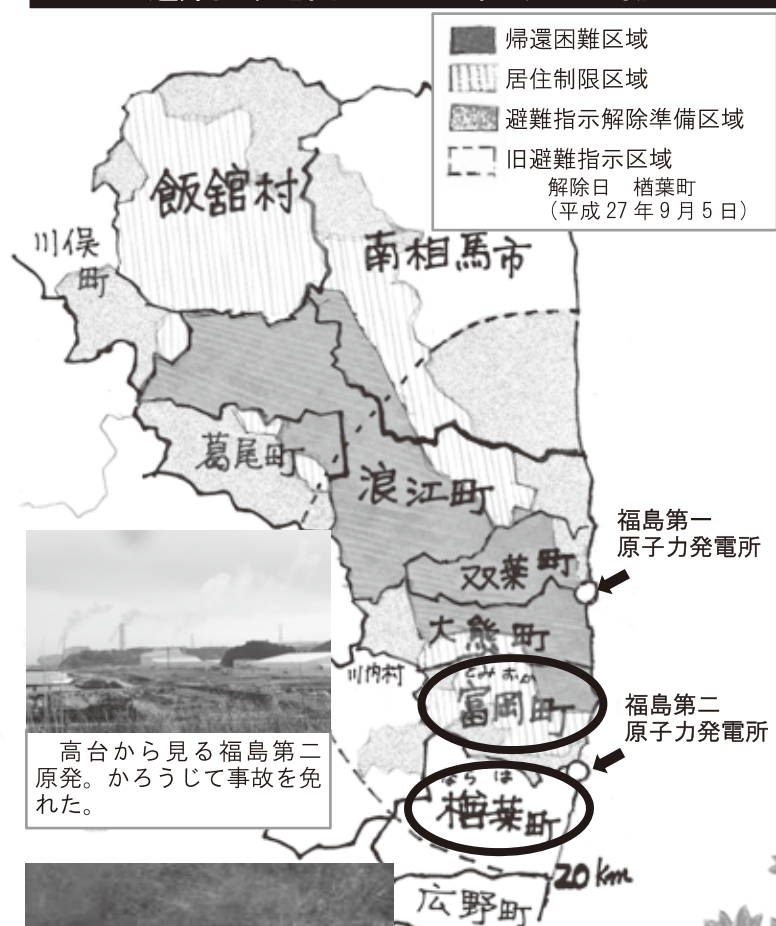
福島第一原子力発電所の事故は、原子炉から放射性物質が放出・拡散され、着の身着のままで住民は避難。今も10万人以上の方々が避難しています。平成27年9月に避難指示区域から解除された楢葉町と、未だ居住制限区域にされている富岡町を重点的に見てきました。

事故直後から被災者のために走り回り、国と東電の事故の責任を厳しく追及してきた前いわき市議（福島原発刑事訴訟支援団団長）の佐藤和良さんに福島の現状を伺いました。



「復興という言葉ばかりが目立っていますが、事故の原因究明はまだまだ進まず、海洋汚染は止まりません」と説明される佐藤さん

避難区域地図 2015年9月5日時点



高台から見る福島第二原発。かろうじて事故を免れた。



住民のいない荒涼たる畑で防護服を着た作業員が除染作業をしていた。後ろに見えるのは、はぎ取った草木・土の入ったフレコンバッグ。

「夜の森公園」にある全長約2.2キロの桜の名所。立ち入り禁止のゲートが目立つ。



現地で感じたのは「除染」がどれほどの効果があるのかということでした。家の周辺などの放射線量を一時的に下げることができるとはいいませんが、山全部を除染するなどという無理なことです。雨が降ればまたじわじわと放射線量が

増えるという状況です。楢葉町は一応除染が済んだ地区ということで居住制限が平成27年9月に解除されています。また、福島第一原発に近い富岡町の一部区域は、来年には除染を完了し、避難制限を解除するというところです。



富岡駅前駐車場。震災時のまま車が止まっていた

海岸から、かろうじて事故を免れた福島第二原発を見ました。ずっと案内してくださった佐藤さんは「国は第一でこれほどの事故を起こしながら、第二原発をまた動かそうとして

いる」と静かに怒りを込めて語られました。佐藤さんの「福島の事故は福島だけの問題でなく、明日はわが身だ」と思ってください」という最後の一言は、狭い国土に50基もの原発を持つ私たちにとっての重い真実だとして感じました。

淀美津子(辰巳台)

は高くなります。すでに2.5兆円を超える税金をつぎ込み、さらに除染にお金を掛けることは無駄なのでは、と感じるのは私だけでしょつか。津波の跡の田んぼに、除染した土を入れたフレコンバッグが山積みになり立ち入り禁止になっている光景や、雨風に曝され破けて中身が見えているものもあります。

6月議会の予定

議会傍聴に行きましょう

★議会の様子は、インターネット中継また録画でもご覧になれます。

千葉県議会

5月27日～6月21日

6月15日 文教常任委員会(山本)

市原市議会

6月16日～7月1日の予定

●正式決定は市原市のホームページで

熊本・大分地震で被災された皆さまに心からお見舞い申し上げます。一日も早く、平穏な暮らしが回復できるようお祈りいたします。

市民ネットのお知らせ 市民ネット事務所(月～金 10:00～17:00)

連絡先 21-1907

●暮らしなんでも相談 第4月曜日 議員が対応いたします

一身体を芯から和らげる一

無料体験会

健康ストレッチ体操

気軽に始められるストレッチが今大人気です。ストレッチは、体の柔軟性を高め、けがの予防に役立ち、しかも血行がよくなって体のこりや冷え症が改善するなどの健康力アップに役立ちます。

7月6日(水)

13時30分～16時

●15時10分から議員とおしゃべり会

場所：You ホール 2F 音楽室

講師：鈴木静江先生

お申し込みのお電話お待ちしております。



●折り紙教室「折り紙名人」福田進一氏

毎月 第3火曜日 13:00～15:00

次回予定 6月21日(火)

参加費 100円(震災復興支援に募金)

●おしゃべり介護喫茶

店主 喜多 庸子さん(自宅介護歴16年)

毎月 第4金曜日 13:30 オープン

次回予定 5月27日(金) 6月24日(金)

●アートギャラリー

5月「チャレンジ7年生」展 グループ金工班

6月「水の煌めき&山倉」写真展 山本誠

7月「手作りバッグ」展・販売 暮林美保子

山本友子 風刺画展「レジスタンス・ポエム」

「ひとこまともこ」でおなじみの傑作作品などの展示会です。政治の世界を山本友子のセンスで面白く描きます。ぜひご覧ください。

期間 5月29日(日)まで

オープン 水・木・土・日曜日・祝祭日

時間 11時～16時

場所 酪・ガレリア ギャラリー酪 併設

窯焼きパンと焼き菓子の店

住所 市原市朝生原 220-1

☎ 0436-96-1299

●市民ネットワーク会員募集

会費振込先 いちはら市民ネットワーク郵便振替口座 0130-3-575259 年会費 2,000円



山本友子 3月県議会報告

平成 28 年度千葉県当初予算は、東京オリンピック・パラリンピック関連に約 20 億円。一方、福祉・教育・子どもの貧困対策の予算は不十分で、医療政策は迷走しています。限られた税金は、未来世代のため長期的視点に立って、施設の維持管理や長寿命化に優先投入すべきです。

ブログで活動を
報告しています



「てくてくとこ」



平成 28 年度千葉県予算 (1兆 7,139 億円) 気になるこんな予算

■地域医療は置き去り？県の医療ビジョンが見えない！

国家戦略特区による成田市への医学部新設に、3年間で35億円の支援金を計上。しかし国の要求はあくまで「国際基準の医学教育を実践し、国際的医療人材を育成するため」であり、地域医療への貢献策は、具体的に担保されていません。

今後、新設予定の附属病院が地域の病院や地域医療に与える影響も心配です。

また、27年度補正予算では、東金・九十九里地域の3次救急、高度医療をめざす東千葉メディカルセンターに、6億6200万円前倒しで助成。

開院後の2年連続の大赤字の補填に当てられま

す。外来患者も少なくベッドもガラガラ。看護師不足を経営難の主な理由としています。救急だけに特化した病院では経営が難しいことは当初から言われてきました。

■児童虐待への対応、追いつかない現場の苦悩

児童虐待相談件数は年間約6千件。児童相談所の現場は常に人手

不足で、施設の過密化、老朽化など多くの問題を抱えています。しかし来年度の児童福祉司・児童心理司の配置は全体で3名増えただけ。全国平均以下の配置状況です。

■高校生への就学支援金 延滞利率はサラ金並み

千葉県には独自に高校生に対して奨学資金の貸付制度があります。返済できれば無利子ですが、返済できず滞納すれば、延滞利率は145%（サラ金並の利率）。大学に進学し、さらに育英資金等で借金をすれば、大学卒業時に1千万円の借金を背負って社会人になる若者も大勢います。

■児童養護施設を出ても、いきなり高額な借金生活

児童養護施設に在籍する子は、基本的に18歳になると施設を出ることになります。施設を出た後、社会人として部屋を借りる、生活必需品を買う、運転免許を取る等の諸経費がかかりますが、そのための生活費等支援一時金は、国・県併せて最大約22万円。今年度は新たな貸付制度が始まり、進学者には月最大5万円、資格取得希望者には最大25万円まで資金として貸付けます。それぞれ一定期間就業すれば返済免除となる仕組みですが、就業の厳しい状況を思うと、社会人となった時に、いきなり高額な借金を背負うことになるのではないかと危惧します。

甘利大臣ワイロ事件 千葉県企業庁の土地が関係！



膨大な産廃が不法投棄された現場

◇事件の発端は 35年前の大量の不法投棄！

甘利大臣が賄賂問題で大臣を辞任した事件には、都市再生機構（UR）だけでなく千葉県企業庁も関係していました。発端は、企業庁が40年前に白井市の千葉ニュータウンの県道用地として買った土地に膨大な産廃が不法投棄された事件でした。

◇悪質業者は逮捕 ゴミはそのまま…

当時、県環境部は文書で不法投棄業者に警告し、業者は逮捕され罰金を払いました。しかし山積みとなった不法投棄はそのまま放置され、周辺住民は異臭に悩まされました。さらにその産廃の上にS事業者が許可なく建物を建てました。（賄賂を送ったのは、このS事業者です）

◇企業庁が30億円でゴミを撤去？見逃してきた不作為を糾弾！

企業庁とURは、山積みとなった産廃を除去しないと道路が造れないので、平成26年9月「30億円で企業庁が産廃を除去することを了解して欲しい」と議会に提案してきました。その時、商工労働常任委員会で「35年間も放置した結果、公金30億円を投入することになったのは、行政の不作為だ」と糾弾したのは私だけでした。

◇全ては藪の中

さらに昨年、産廃撤去費が30億円から37億に膨れ上がり、さらにS事業者の移転補償2.2億円問題も浮上しました。諸経費の内訳は不明のまま、工事ストップしています。大臣の贈収賄事件に発展した今となつては、URも県も貝のように口を閉ざしています。大切な税金が理由もなく浪費されることは断固許せません。今後も粘り強く真相究明に取り組めます。

シリーズ 23
ひとこまとこ

アベノミクス 新3本の矢

